

様式4

令和4年度 第2回学校運営協議会評価報告書

鳥取県立岩美高等学校

学校長 辻中 孝彦

評 価 日	令和5年2月27日（月）
評 価・提 言	学校の所見・改善策
1 重点目標の達成状況について ・国公立大学合格者は3名と学力向上においては成果を挙げているが、1年以内の離職率は県平均を若干上回っている。 ・「人間性」の育成については、校則やマナーの厳守や挨拶に対する生徒の意識は高く、生徒の状況は落ち着いている。 ・地域連携・地域貢献に対する教職員・保護者の肯定的回答率は高いが、「地域に貢献したい」という生徒の割合は目標を達成できていない。 2 目標達成のための取組結果について ・あり方検討による教育課程の見直しは、中学校側から見ると充実したものになっており期待できる。 ・卒業後短期での離職率が高いと企業の学校に対する不信感につながる。定着指導なども含めてミスマッチを起こさない対策が必要になる。 ・生徒指導については、生徒にとって必要な自由を与え、責任ある行動をとらせることも必要になる。 ・探究活動の見直しと拡充については、生徒の自己有用感を高める意味でも期待が持てる。 3 具体目標の達成状況について ・基礎学力の向上となるリスタート学習が本校の魅力と感じている中学生が多いが、生徒の学力の向上感は目標を達成しているにもかかわらず、教職員の肯定的回答率は減少している。 ・生徒は非常に落ち着いているが、手をはなせる状況になれば更なる成長を促せる。さらには自己有用感を育てることも課題となる。 ・「教育相談だより」等をホームページに掲載するなど広報の充実が必要。 ・地域課題の解決に向けて、地域と関わりコミュニケーションすることで、表現力や判断力がついてくる。キャリア教育の視点からのイワッツミッションの拡充を求める。 4 目標達成のために取り組んだ具体方策について	「1 『学力』＝『学ぶ力』の向上と進路実現」に関して ・進学希望者の指導・就職希望者の指導とともに進路指導体制を再構築する必要がある。「自己の在り方生き方を自己の進路と結びつけ」「進路を力強く着実に切り拓く」という「総合的な探究の時間」で求められている視点から進路学習の内容を精査する。 ・ICT等のツールも活用しつつ、生徒が自信を持ってチャレンジできるよう1年生1学期のリスタート学習の質を向上させる。そのためにも「指導と評価の一体化」の観点からの学習指導の不断の点検を進める。 「2 『人間性』の育成」に関して ・生徒が落ち着いている状況においては勇気を持って教員が「手をはなす」ことも必要である。社会で求められる「人間性」の育成を大切にしつつも生徒自身に任せる取組を分掌ごとに検討する。 「3 地域と連携した学校づくりと魅力化」に関して ・探究学習ワーキンググループでの検討内容を実践に移すことをとおして、地域との連携によるキャリア教育の更なる充実と生徒の自己有用感の向上を目指す。 ・探究学習での岩美中学校との連携を具体的に検討する。岩美町からの支援に対して小学校や中学校との連携による教育の効果として還元していきたい。

・積極的な生徒募集の成果として入学者が増えた結果、受け入れる生徒が多様になり「リスタート学習」の質的な向上が求められる。 ・中学生が来たいと思う学校にするには、まず来た生徒を育てることが大切。 ・大学では年内入試（総合・推薦）の定員が増えてきている。高校での探究活動をとおして自分を表現できる力を育てることが求められる。 ・「生徒指導提要」が改訂されたことを踏まえ、校則についても古いものの役目の終わったものは検討し、時代に対応していく必要がある。 ・中学校の探究活動の中で岩美高校との連携ができる内容や方策があってもよい。 ・中学校での高校入試面接練習では地元の方に協力いただいているが、この取り組みに大学生や高校生にも入ってもらうことも検討したい。 ・地域連携をとおした自己有用感の向上のためには、企業や地域の話聞く機会を増やすことも必要。現在のところ金融教育などの社会のリアルに触れる場が十分に提供されているとは言えない。 5 その他 ・地域連携などの魅力を中学生にまだ伝え切れていない。 ・学校ホームページについて文字だけのものは閲覧者が少ない傾向がある。中学生を含め誰でも携帯で見えるようなものが良い。その際ねキャッチコピーなどの心に残るものがあれば興味をもつ。 ・魅力化コーディネーターの配置や役割、そして成果等について保護者に周知することが今後の課題。	・地域連携の取組による成果も含め、保護者への丁寧な情報発信に努める。そのためにも学校ホームページでの効果的な情報発信について魅力化コーディネーターの配置という強みも生かしつつ検討を進める。
--	--